

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校

学校番号

8

## I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の錬磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的な生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基本的な生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組み、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導部	
4 現状の分析	○87.5%の生徒が、将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われていると感じている。 ▲24.2%の保護者が、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしているのか分からないと答えている。	
5 学校の抱える課題	◇上級学校からの評価項目が大きく変化し始めており、それに対応した授業及び進路指導の改善が必要である。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・進路に関する情報の共有や迅速な伝達ができるよう、情報のデジタル化を推進する。 ・推薦型選抜や総合型選抜に対する校内の指導体制を確立する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 求人票デジタル検索システムの導入 (2) 地域（周辺企業・上級学校）と連携し、総合探究における共同研究についての準備	(1) 就職を希望する生徒全員が活用する (2) 企業7社、上級学校3校以上の組織と共同研究についての連携を結ぶ。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①求人票閲覧システム「Handy」の導入し、個人用タブレット・スマートフォンで閲覧した。 ②分掌会に講師を招き、総合型選抜（探究を評価する）の現状を知る勉強会を実施した。 ③企業や上級学校へ訪問し、変化する入試対策に必要な身に付けたい力を説明し、連携の依頼を行う。	①就職希望者の何割がIDを取得し活用したのか ②全職員が大学入試の変化を知り、それに対する対策を考える事ができたか ③企業7社、上級学校3校以上	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
12 成果・課題	○求人票閲覧システム「Handy」の導入は、担当職員の求人票公開までにかかる労力を大幅に減少させた。また、生徒は、気軽に自身のタブレットやスマートフォンで閲覧ができたため、複数ある企業から希望の企業を精選する時間が大幅に短縮でき、複数企業へ職場見学することができるようになった。 ○新しい推薦型選抜・総合型選抜（探究を評価する）対策に必要な活動に協力して頂ける企業や学校と連携を結ぶことができた。 ▲進路実現に向かって継続的に努力し、自らの可能性を拓く意欲のある生徒を育てることができていない。	
13 来年度に向けての改善方策案	・入学時の基礎学力が高い生徒たちに対して、推薦型選抜・総合型選抜（探究を評価する）を利用し、県内の国公立大学・短大や私大リーダー校を目指す補習を実施する。 ・職員に対して、効果的な校内研修会を実施する。 ・保護者に対して発行（メール配信）する「進路だより」をより充実させる。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】
・大学に入学してくる学生は、高等学校での手厚い指導に慣れている。自ら考え行動できるようになるとよい。
・大学でも書く力、語彙力不足などが問題になっている。基礎学力の育成を十分にしてほしい。